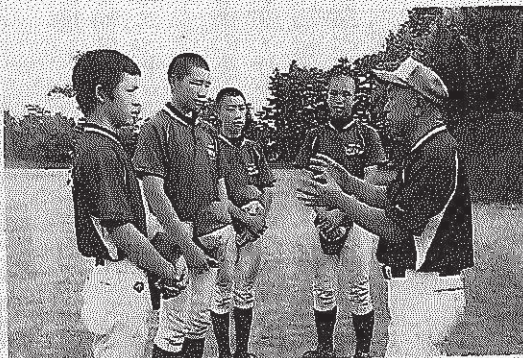


「野球を好きに」を第一目標

鴻巣・埼玉北ポニーウインズ全国へ

試合経験重視する中学硬式リーグ

中学硬式野球の「ポニーリーグ」で、鴻巣市を拠点とする埼玉北ポニーウインズクラブ(埼玉北)



三浦監督から練習後の確認事項を聞く、右から小針隆一、島田丈一、朗山田和志、假谷駿介の各選手

ウインズ、金田康嗣代表)がこのほど、全日本選手権への出場を決めた。独特の試合ルールの下、「野球を好きになること」を第一目標に練習に励む子どもたち。多くが高校野球に進み、3年間辞めずに続けるという。

ポニーリーグは、すべての選手の出場機会を増やすことに配慮したルールを持つ。先発出場した選手は、代打などを送られても、再び同じ打順で出場できるリエントリー(再出場)ルールが特徴。人数が多い団体は、チームを複数つくり同じ大会に出場できるなど、多くの選手に試合を経験してもらう仕組みがある。

埼玉北ウインズは、今年の1年

生で22期を教え、県内加盟3団体で最も歴史がある。現在3年生4人、2年生13人、1年生16人の計33人。昨年の全日本選手権ベスト8。今年も10日、同選手権3次予選を兼ねた関東大会で勝ち、進出を決めた。

試合前日の9日、グラウンドでは、同じ守備位置に技量も身長も異なる複数の選手が並び、ほぼ同数のノックを順番に受けていた。

「どの子も、同じ会費で同じ練習量ですよ」と話すのは三浦文雄監督(64)。三浦監督は高校時代、都四商(東京)で遊撃手や投手を務めた。ポニーリーグ指導者として、関東選抜チームを海外で指揮した経験もある。8人のコーチ陣が監督を支えている。

「試合前日の練習を学校行事以外で休んだ者は、先発出場させない」という独自ルールで、

真面目に努力する子にも報いる。「試合の勝利は大切だが最優先ではない。何より野球が好きになって、高校野球につなげて欲しい」と話す。

主将の小針隆一君(行田市立西中3年)は、学校の部活動はバスケット部だが、ウインズの活動がある土日、祝日は野球優先。「先輩が親しみやすいなどチームの雰囲気良かったので、参加を決めた。高校に進んでも、ずっと硬式野球を続けた」と、汗が浮かぶ顔で話した。

三浦監督は「学校の部活動の野球部指導者は、必ずしも好きでやっている人はあまりではない。だが、クラブチームの指導者は自ら志願し、その任に当たっている」と話し、中学生が野球に取り組み場合の選択肢として、クラブチームの可能性を強調した。(三宅範和)